

## 令和元年度 高野地区町政懇談会

開催日時 令和元年 8 月 28 日（水）午後 7 時～午後 8 時 30 分

開催場所 高野公民館

出席者 立山町 舟橋町長、酒井副町長、大岩教育長、青木総務課長  
青木教育課長、中新川広域行政事務組合黒澤下水道課長  
松野水道課長、清水健康福祉課長、廣瀬商工観光課長  
野田農林課長、池田建設課長、秋元土木施設改良係長、  
宮越教育課主査技師

地元議員 村上議員、澤井議員

高野地区区長会 松井会長

企画政策課 林課長、山田課長補佐、田中係長、森主任、林主事

参加者数 63 名（うち町職員 12 名）

### 1 挨拶

町長挨拶

### 2 懇談会

#### (1) 町からのお知らせ

- ① 高野小学校屋内運動場の整備計画について（教育課長から説明）
- ② 下水道料金の改定について（中新川広域行政事務組合下水道課長から説明）

#### (2) 意見交換

（松井区長会長：地区協議事項①～④説明）

##### ① 高野小学校の存続について

歴史ある高野小学校の存続を強く望んでいる。高野小学校の存続は、イコール高野地区の存続でもあると認識している。しかし、近年の少子化に伴い児童の減少が著しいことから大変憂慮しており、高野小学校の存続については是非ともお願いしたい。

（教育課長）

高野小学校は平成 31 年 4 月より、日中上野小学校と統合を行った。

統合後の児童数は、町の適正規模の方針である「1 学年の最小児童数が概ね 20 名」には達していないが、子どもたちが切磋琢磨する環境や、チームスポーツ等の教育機会が維持できる状況にあると考えている。

また、昨年度 5 回に渡り開催された「立山町立小学校適正配置検討審議会」からは、高野と日中上野両校区での新たなコミュニティの成熟期間等を考慮し、令和 6

年度以降も高野小学校を存続するとの答申を受けており、町教育委員会としてもこの方針を踏まえた運用をしていく考えである。

ただし、令和6年度以降も町全体において児童数の減少が続くようであれば、必要に応じて審議会や意見交換会を開催する等、継続的な取組みも必要であるとの方針が出されていることを申し添える。

## ② 高野地区の人口減少対策について

立山町の人口の減少が続いている中、高野地区においても人口の減少が著しく、今後何らかの対策が必要と思われる。他地区においては宅地造成が進められ、人口が増加したとも聞いている。

当地区は、立山インターから非常に近いという恵まれた環境にあると認識しており、この利点を有効活用し、企業等の誘致が進めば町財政にとっても安定的な財源が確保されると考えられる。

このことから、高野地区では宅地造成事業や企業誘致が人口減少対策への喫緊の課題と考えているが、それぞれの実施の有無についてお聞かせ願いたい。

(商工観光課長)

町では昨年2月に、立山町人口減対策アクションプラン2018を策定し、県外からの転入者が町内で住宅を新築・増築する際の補助を拡充した。その他、県内・町内在住者を対象とした、町の空き家バンク登録住宅の取得・リフォームに対する支援を追加した。また、子育て世帯が親世帯との同居に必要な住宅を取得する際の経費の一部に対して支援する「三世代住宅取得支援補助制度」を創設した。

宅地造成は町で実施する予定はないが、現在米沢地区において地籍調査を進めており、地籍図・地籍簿の法務局での登記終了後、民間による宅地造成など地域の活性化につながる動きも期待でき、町もできる限りの協力をしてまいりたい。

高野地区を含めた立山インターチェンジ周辺は交通アクセスに優れており、利田地区に続く企業誘致の候補地としてPRを行っているが、この一帯は優良な農地が広がる農業振興地域であり、また、第1種農地であるため、農業振興地域からの除外や農地転用の許可など、企業進出に必要な手続きに相当の日数を要する。このため、企業からお問い合わせいただいても進出決定に至らないことがあった。

町では、企業が進出するまでの期間を少しでも短縮できるよう、今年度、立山上市横断道路北側の高原及び辻地区の一部において測量を行うこととしており、今後の企業からのお問い合わせに速やかに対応できるよう備えたいと考えている。

企業誘致については、地権者の方や地元の皆様の引き続きのご理解ご協力をお願いしたい。

## ③ 児童及び園児等交通弱者を交通事故から守るための諸対策の実現について

当地区は、小学校や保育園を有しており、メイン道路は小中学校の通学路あるい

は保育園が園児の散歩で使用しているため、交通事故の危険性が非常に高いと認識している。

最近では、大津市で散歩中に保育園児が車同士の衝突事故に巻き込まれ、16人が死傷する重大事故も発生しており住民の関心がとても高まっている。

このことから、交通事故の危険性が高い交差点や過去交通事故が発生した場所を中心として、歩行者の防護柵（ガードレール）等を設置する等の安全対策についてお聞かせ願いたい。

（建設課長）

児童及び園児等の通学路における交通安全の確保については、町としても極めて重要であると考えている。

町では、平成26年度から通学路の安全対策に取り組むため、学校関係者や道路管理者、警察、交通安全協会などで構成する通学路安全推進会議を設置し、関係者が合同で通学路の点検を実施しており、今年度、高野小学校の通学路においては6月27日に点検を実施した。

また、今年5月に滋賀県大津市で発生した保育園児の交通死亡事故を受け、園児の散歩コース等を対象とした緊急点検を町内のこども園・保育所にて行い、高野地区では高原保育園を対象に、8月5日に点検を実施した。

副園長からご指摘があった竹林地内交差点等については、要対策箇所と位置づけ、今後防護柵等の安全対策の検討を行いたい。

なお、これまでの通学路安全推進会議において指摘された高野小学校区の要対策箇所について、路肩の拡幅やカラー舗装などのハード整備や、交通指導員の配置などソフト面での安全対策を実施している。

今年度は高野小学校前の町道野町幅下線の道路改良工事に着手したところであり、まずは、校門から押しボタン式信号の間の60m区間の路肩拡幅（側溝の蓋かけ）を実施し、児童の歩行空間を確保しつつ、路側帯のカラー舗装に取り組む。

最後に、地区要望として出されている江崎交差点のガードレール設置については、6月に実施した合同点検においても現地を確認している。この交差点は県道どうしの交差点であり、道路管理者である富山県立山土木事務所へ確認したところ、「8月末までに防護柵を設置する予定である。」とのことであった。

今後も、国や県、警察等と連携して、歩行者が安全に通行できる道路環境の提供に努めていく。

#### ④ 立山町の人口減少に伴うコンパクトなまちづくりの実現について

今後、立山町の人口の減少が見込まれる中、コンパクトなまちづくりが必要と思われる。特に立山町から富山市内等への交通アクセスが良くないと思われることから、通勤通学時間帯を中心に地鉄立山線の電鉄富山駅⇄岩峯寺駅間の本数を減らし、電鉄富山駅⇄五百石駅間の本数を増やしてほしいと思っている。その結果、

人の行き来が増え五百石駅周辺の駐車場や商店街が整備され、活気がでてくるのではないかと思うが、富山市内へのアクセスや将来のまちづくり構想等についてお聞きしたい。

(企画政策課長)

人口減少による弊害は様々あり、その1つとして地域公共交通の撤退・縮小がある。

富山地方鉄道立山線は、住民の皆様にとって日々の生活に必要な移動手段であるとともに、観光客にとっては世界的な観光地「立山」への主たる移動手段であり、町の背骨とも言える基幹的な公共道路線である。このため、五百石駅と一体化した交流拠点施設である元気交流ステーションや岩嶺寺駅・釜ヶ淵駅・寺田駅でのパーク・アンド・ライド駐車場、駐輪場などのハード面の整備に加え、動く美術館電車や多手山プロジェクトなどソフト面での取り組みも進めてきた。

中でも、観光振興に積極的に取り組んでいるのは、人口減少による町民の利用者の減を、観光客の皆様立山線を利用していただくことにより補うためである。

これらの町の取り組みに加えて、平成27年の北陸新幹線の開業効果により、地鉄立山線の1日平均の合計乗降人員は、平成26年度の3,087人から平成30年度には3,507人と、13.6ポイント増加している。

今後も地域資源を磨き上げ、コンパクトで質の高いまちづくりの実現に向け、地方創生交付金などを活用しながら取り組んでまいりたいと考えている。

(自由意見)

- 立山町在住者で富山市内に通勤している方で、立山町以外の駐車場を利用して電車通勤している方が多くいると思う。また自家用車で富山市へ通勤している方も、本来は五百石駅から電車で通勤した場合に、町にもメリットがあると感じている。

このような観点から、通勤・通学の時間帯を中心に電鉄富山駅と五百石駅間の本数を増やしてほしいとお願いしたところであるが、利用している方の生の声を調査したことはあるか。無ければ、公共交通機関をどのように考えているのか生の声を一度聞いていただきたい。

(町長)

町独自で、五百石駅における1日の乗降客数を調査し、インタビューも行っており、資料もある。乗降客数は昭和40年～平成18年の間に5分の1まで減っている。なぜなら、自家用車の普及と、中学生高校生の数が減ってしまったからである。本数を増やせば、多少便利になって乗っていただける方はいるかもしれないが、立山線を支えているのは中学生、高校生の数である。本数を増やしたからといって、昔のように利用が増えるとはとても思えない。

車両の確保の問題もある。地区から要望いただいた内容を地鉄に提出することもあり、工夫もしていただいている。本数についても要望しているが、増やしていただい

たことはない。逆に減らしたいと考えておられるのが地鉄立山線の現状である。

- 立山インター付近の企業誘致活動として、今年度辻・高原地区横断道路の北側と栃津川の間、辻南交差点の場所について、2,000万円の調査費がついたと伺った。まだ調査が行えていないとのことだが、今年度中に行うのか。また、照会があった企業はどのような企業であるか。地元からの従業員の採用はどの程度か伺いたい。

(町長)

辻・高原地区については今年度測量を予定しており、今年度中に終わらなければならない事業である。

照会があった企業は、大概が物流倉庫である。企業誘致に当たっては始めから用地買収や造成してあるのが一番良いが、町にはそこまでの体力(財力)が無いため、せめて測量だけでもやっておこうと思っている。

地元からの従業員採用について、町民を10人以上雇うと5,000万円補助するという町単独の補助事業があり、それを当てにして企業に進出いただいているが、採用募集を行っても人が集まらない状況である。

- 引きこもり問題がクローズアップされ、懸案事項となっている。富山県も取組むとの新聞報道があった。実態調査を行うとのことであったが、町に対して要請が来ているのかどうか、或いは予備調査があるのかどうか伺いたい。

町での対応窓口は準備しているか。全国では民生委員さんが調査活動の中心となっているが、民生委員さんとの話し合いが進められているかどうか。今後のことを含めて、見通しや方針を伺いたい。

(健康福祉課長)

町では、引きこもりの人数を調査したことはない。今のところ県から予備調査等についても連絡はない。相談窓口は民生委員さんと繋がりのある健康福祉課社会福祉係であり、お話を伺い対応すべき係と連携している。引きこもりの家庭では様々な要因が重なっており、1つの部署で解決することは困難である。地域の皆様には必要に応じて、町へ情報提供いただくようお願いしたい。

- 企業誘致の際は、本社を持ってくるよう努力してほしい。

(町長)

本社機能があれば事務職の採用もあるので、努力しなければならないと思っている。

- なぜ水道料金を上げなければならないのか。

(町長)

敷設してから40年以上経った水道管が80kmある。水道管が古いことから、近年は非常に漏水事故が多い。町ではこれまで下水道事業に合わせて水道管の更新を行って

いたが、このような更新方法ではとても追いつかない距離であることに気付いた。

水道を入れずに井戸で生活しておられる家もあり、水道料金を上げないで税金を使うと、水道を入れていない人に不公平感が出るため、水道会計は水道料金でまかなうことが原則である。しかし、昨今では基幹的な管路の補修について3分の1ではあるが補助金があることがわかり、これを活用して進めていこうということになった。しかし、3分の2のお金は町で準備しなければならないことから、水道料金を上げ、それでも全然足りないので、多少税金を使ってでも仕事をしていきたいと考えている。詳細についてはグラフや絵があったほうが分かりやすいと思うので、町の広報等を通じて説明する予定なのでご意見を賜りたい。

- グリーンパーク吉峰のパークゴルフ場の利用には500円の使用料がかかる。せめて古いコースだけでも無料にしていきたい。

(町長)

パークゴルフ場の運営は株式会社たてやまに任せている。パークゴルフ場に限らず、森林公園の維持管理も含め毎年数千万円の委託料を町が払っている。

利用料の安いパークゴルフ場は、都市公園内にあって国土交通省の補助金で安く整備できたり、維持費も公園管理費で交付税措置されたりしている。100%自己負担の吉峰とは事情が異なるためご理解いただきたい。

- 町出身や在住の作家がたくさんおられる。石川県の飯田高校は地元の作家の作品を廊下に並べており、小松高校では2つの教室に地元作家の作品を展示していた。町は生徒数が減っているのに教室が空いているのではないか。例えば雄山中学校に空き教室があれば、その教室を利用して町の作家の作品を展示すれば、芸術文化の豊かな町が生まれるのではないか。

(町長)

アイデアは素晴らしい。空いている学校もあり、人を呼び戻すチャンスであると思う。

(教育長)

魅力的な提案である。空き教室を利用し文化を発信して、人に来ていただく事は非常に良いことであり、努力していきたい。

- 下水道使用料の改定について、町内で下水道整備が終了している地域の下水道の加入割合はどの程度か。料金の値上げについて、加入されていない方に加入していただくような努力はしているか。

(中新川広域行政事務組合下水道課長)

町の水洗化率は、処理区域内人口22,063人に対して18,828人の85.3%である。世帯数では9,455件が使用可能であり、7,864件の方が利用している。上米沢地区で

は、75世帯のうち57世帯が接続しており、80.9%である。なお、高野地区では、1,045件が使用可能であり、862件の方が利用しており84.1%である。

下水道への接続は、整備してから3年以内に接続してほしいとお願いしている。また、2年半を経過しても下水道未接続の方には、下水道接続のお願いのハガキを送付し、加えて職員が戸別訪問して接続のお願いをしている。

今後も水洗化の普及に向けて努力したい。

- 高齢者の交通弱者対策を実施いただきたい。運転免許証を返納すると車は使えないし、町も空洞化しており買い物に行くお店も無い。買い物弱者、通院弱者に寄り添った対策を講じていただきたい。

(町長)

町では、75歳以上で運転免許証の無い方、75歳未満でも障害者であるために運転免許証を持っていない方に対し、町内のタクシー・町営バスが利用できる月額2,000円分のポイントを渡すことを考えており、10月1日の開始に向けて準備している。

(商工観光課長)

町全体で移動販売サービスを行おうと準備している。車の準備が整い次第、町商業協同組合へ委託して実施するので、巡回地等についてご意見をいただきたい。

- 高野小学校の前の県道は、東側に歩道がなく、特に橋の手前のカーブしているところは子どもたちにとって危ない。町から県に歩道を作るよう働きかけてほしい。

(建設課長)

今年度、通学路・お散歩コースについて点検を実施し、安全対策を進めている。予算の関係もあり順調に進まないところもあるが、側溝の蓋がけやカラー舗装等で対応できる部分もある。県に要望し、連携しながら取り組んでいく。

### 3. 閉会

松井区長会長挨拶

村上議員挨拶

澤井議員挨拶

終了